

英国 United Kingdom

■本格的な活動開始英国W.S.F. ■
昨年の10月19日、英国のW.S.F.で第2回の会員総会が開かれました。

この日、英国各地から女性スポーツに係わるたくさんの会員が事務局のあるシェフィールドに集まり、会場は一日中熱気につつまれました。午前中はW.S.F.のビデオ放映や、護身術、野外活動指導法、ポートこぎといった講習会など、会員が自由に参加できるコーナーが設けられました。

また午後からは、女子にとっての学生スポーツ、人種・性別・スポーツ、女性スポーツのコーチングなどの研究発表、そしてそれらについての討論会が開かれ、活発な意見交換がありました。続いて1986年度の活動報告、今後の活動計画が発表され、その中で、この総会に先だって行なわれた英国W.S.F.の役員選挙の結果報告もされました。

「スポーツ界において、現在、我々がおかれている状態をよりよい方向へ進めて行くには、ただ大声で叫んだり、他の悪口を言うのではなく、一つ一つ、我々が実際に行動を起こすことです」最後に、英国W.S.F.の代表、セリア・ブラッケンリッジがこう締めくくり、総会の幕を閉じました。

米国 U.S.A

■ナブラチロワはW.S.F.の強力な味方■

テニスの女王、マルチナ・ナブラチロワは、W.S.F.のよき協力者でもあります。一人でも多くの女性に、よりよいスポーツの機会を与えようと15万ドル(約2300万円)をW.S.F.に寄付しています。このナブラチロワが、またもすばらしいイベントを企画しています。W.S.F.の創立者であるビリー・ジョン・キング、よきライバルのクリス・エバート・ロイド、そしてバム・シュライバーの4人でダブルスマッチをやるうというものです。やはりこれも女性スポーツの発展を目的とし、この趣旨に賛同する一般の人々から、一人5ドルの寄付をつのろうというのです。1987年4月5日、ニューヨークのマジソン・スクエア・ガーデンで開催予定です。またこの試合の様子は、テレビ放映もされます。いつもながら、米国の活動ぶりはうらやましいかぎりです。

さて、そのW.S.F.の本部がサンフランシスコからニューヨーク(左記)へ移転し、それに伴い、新しい事務局長、デボラ・S・アンダーソンも迎えました。今後の活躍が期待されます。

Executive Director Deborah S. Anderson
342 Madison Avenue, Suite 728,
New York, NY, 10017 U.S.A.

ソ連 U.S.S.R

■国際舞台進出まじか、女子水球■

激しい格闘、猛烈な攻撃といった特徴から、水球は昔からもっぱら男性のスポーツでした。ところが今や、この種目でも女性の進出は著しく、ソ連でも急速に関心が高まっています。

女子水球は60年代に生まれ、欧州で急速に人気を高め、1982年には単独の種目として公式に認められ、欧州選手権や、ワールドカップが定期的に開かれるようになりました。

「チームの大半の選手が競泳から転向してきました。競泳選手は一般に早く限界に達するので、必ず早いうちにスポーツを続けるべきか、どうかという問題に直面します。しかし女子水球が誕生したお陰で、この問題は余り切実でなくなり、入部希望者にはこと欠きません」ソ連を代表する女子水球チームの一つ、モスクワ体育大学スポーツクラブ・チームのセルゲイ・フロロフ監督はこのように語っています。また、医学的見地からも水球はけがの頻度が少ないので、女性がやっても全く支障はないとのこと。

最近では、全国の各都市で女子水球大会が開かれ、会場はいつも満員。ソ連女子ナショナルチームの結成もすでに決定しており、彼女たちを目の前で見ることができるよう、そう遠くはないようです。